（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和４年３月 31 日

県立神奈川工業高等学校（定時制）

令和３年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（書面回答）	総合評価（3 月 18 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	工業の専門性の向上を図り、実際的・体験的学習に重点を置くとともに、産業界の求める人材を育成するための新しい教育課程を編成し、学校全体でカリキュラム・マネジメントに取り組む。	生徒が落ち着いて学習に取り組める環境作りに努め、学び直しによる基礎学力と専門技術の定着を図り、確かな学力の向上を目指す。 組織的な授業改善に取り組み、生徒が自ら学ぶ姿勢を身に付け、学習意欲の向上につながる教科指導の充実を目指すとともに、オンライン授業の環境整備に努め、技術的な向上を目指した研修会等の充実を図る。	明確な授業ルールの策定やＴＴなどによるきめの細かい指導を行うとともに、習得した知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を図る。 双方向授業を展開し、自ら課題を発見し解決する力を育むため組織的な授業改善に努めるとともに、持続的な研修の開催により、情報機器の実践的な活用方法など、技術の習得を図る。	学習環境の整備を進め、生徒の学習意欲と学力の向上につなげ、生徒自らが課題に取り組み、解決する指導が実践できたか。 オンライン授業へ向けての環境を整え、わかりやすい授業を行うための技術や情報を共有することができたか。	授業ルールの浸透やＴＴによる指導の成果により、落ち着いた環境の中で授業が行われている。 コロナ禍の中、オンライン授業における双方向授業の展開やＩＣＴ機器を活用した授業を行う教員が増え、ただ知識を伝えるだけでなく、生徒にとってわかりやすい授業、思考力や判断力・表現力を育成する授業が展開されている。	授業や学校行事に対して、積極的に取り組もうとする生徒が増えてきたので、生徒の様々な活動を通して、課題解決能力の育成を図れるように継続的に指導を行っていく。 授業を見に行こう週間や研究授業、職員に対するＩＣＴ機器の研修会などを通じて、教員が個々に持っている知識・技術を共有し、ブラッシュアップすることで、組織として生徒の成長につながる指導を行えるように引き続き取り組んでいく。	高校での従来の専門科目・共通科目でどのような工夫がなされているかについて、さらに具体的に示されていれば尚よいかと思います。	先を見越した準備を行っていたことで、コロナ禍における、９月のオンラインと分散登校を組合せたハイブリット授業に、教員だけでなく生徒もスムーズに対応することができた。 ＩＣＴ機器の設備が整いつつあり、それとともに教員のスキルも向上してきている。日常の授業でも、半数以上の授業でＩＣＴ機器を用いて、生徒に視覚的に説明を行うことで、その理解を深める一助になっている。 授業や学校行事に意欲的に取り組む生徒の姿が徐々に増えてきており、より高い目標に向けて努力をしようとする雰囲気が作られてきている。	今年度の成果を、次年度も継続してあげることのできるよう、そして、もう一段上のレベルで実現できるよう、教職員が協力してスキルアップを目指すことと、情報の共有を図ることで同じ指導が行えるよう工夫していく。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①豊かな人間性の育成を図るとともに、個に応じた生徒支援と相談体制の一層の充実により生徒理解に努め、生徒が安心して学べる学校づくりを進める。 ②社会的・職業的に自立した人材の育成をめざす。 ③部活動の活性化を図る。	①個に応じた支援体制の充実をめざし、職員研修の充実を図る。 ①職員間の情報共有に基づいた生徒指導や食育指導により、心身ともに健康で、安全かつ安心して充実した学校生活が送れる環境づくりに努める。	①職員研修を実施し、心の健全・身体の安全等に関する支援スキルを向上し生徒理解を深める。 ①登下校指導、校外・校内巡視で得た情報を共有し、生徒指導に生かすとともに、食育教育に興味・関心を持たせる広報活動の充実を図る。	①生徒個々の理解を深め、個に応じた相談・支援を実践することができたか。 ①生徒指導の実践を通じ、生徒の日常行動・意識が向上したか。 ①喫食率が向上したか。	①横浜市大病院の精神科医による講義をオンラインで受講し、自死に関する知識の理解を深めた。 ①概ね生徒の日常行動・意識は向上傾向にあるが、一部の生徒の言動に問題が見られた。また、喫食率に大きな変化は見られない。	①職員研修や情報交換会を重ね、今後も情報共有と教職員個々のスキルアップを図る。 ①職員研修や情報交換会で得られた情報を元に、生徒個々に応じたアプローチを行う。 ①アンケート等を実施し、生徒のニーズの把握に努める。		①生徒の抱える情報の共有や教育相談研修会を積極的に実施し、職員のスキルアップにつながった。特に、校内事例報告は職員から好評で、私費会計業務を担当している職員にも有意義なものとなった。 ①登下校時の声掛けは生徒理解において重要であり、担任や教科担当との情報共有に役立っている。また、食育推進週間等で一時的に喫食率は向上するが、継続的な喫食にはつながっていない。	①今後も職員研修を継続して行い、職員全体のスキルアップにつとめる。また、職員アンケートを実施し、職員のニーズにこたえられる内容のものにする。 ①生徒が食堂を利用する場合、早めに登校する必要があり、それが食堂利用の足枷となっているようである。食育の観点からも、栄養バランスのとれた食事をとることは重要なので、引き続き食育指導を継続して行う。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（3 月 18 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（書面回答）	成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	入学から卒業までの体系化したキャリア教育を確実に実践し、社会を構成する一員としての自覚を育む進路指導・支援に取り組む。	生徒の進路希望を実現するためのキャリア教育実践プログラムをより分かりやすく、活用しやすい形に整備する。 進路ガイダンス、ＬＨＲを活用し、年間を通して進路指導・支援の充実を図る。	生徒が進路実現のために身に付けるべき能力や知識を複合的に組み合わせたプログラムを作成するとともに、新たな取り組みも検討する。 グループと学年が連携をとり、適切な時期に生徒の実態に合わせた内容のガイダンス等を実施する。	生徒の進路実現のためのプログラムを構築することができたか。 進路ガイダンス及びＬＨＲについて、生徒にとって進路実現につなげる機会となったか。	キャリア教育実践プログラムは見直しに向けて検討を続けている。 進路ガイダンスは定時制の卒業生を呼んでガイダンスを実施するなど生徒の進路実現のためのプログラムづくりに励んでいる。	キャリア教育実践プログラムの整備は複数人でチームを組んで臨む。また、外部の協力も考える。 進路ガイダンス及びＬＨＲは年間のスケジュールを整理し、次年度への準備とする。	貴校のキャリア教育は学が多く、高等学校段階全体でのキャリア教育推進につながることを期待します。 就職先や進学先などのデータを示すことにで、客観的な出口評価がなされてさらに良くなるとおみます。 「ものづくり」を愛する若者の育成に期待をしております。	生徒の進路希望を実現するための進路指導・支援を実行することができた。 キャリア教育実践プログラムは、より分かりやすく、活用しやすい形に整備できた。今後はこれを周知していくことが必要である。 進路ガイダンス・ＬＨＲも生徒の進路実現のためのプログラム作りや整理を進めているが、まだまだ体系化できていない。 近年の傾向として、就職希望者だけでなく進学希望者も一定の割合でいるため、生徒が自ら考えて進路決定ができる機会を与えていきたい。	キャリア教育実践プログラムを教員・生徒が共有する。そのために学校ホームページなどにも掲載する。 進路ガイダンス・ＬＨＲは年間スケジュールを示す。
4	地域等との協働	地域・企業との連携・協働を通して教育活動を活性化させ、地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。	地域貢献清掃活動の定期的な実施を計画するとともに、地域行事への生徒参加を促す。 学校ＰＲに学校ホームページを活用し、中学生やその保護者等への情報の適切な発信に努める。	地域貢献清掃回数を増やし、地域のイベントに生徒が参加できる環境を作る。 学校ホームページの定期的な更新に努めるとともに、学校説明会等を通して、中学生や保護者等の本校への理解を深めさせる。	地域清掃活動の回数が増えたか、また地域活動に生徒が参加することができたか。 学校ホームページによる情報発信の効果や学校説明会等における本校への理解について、アンケートの回答に向上がみられたか。	10 月 31 日の文化祭の日に実施予定。 定時制のホームページ今年度、定期的に更新し情報発信をしている。	10 月に第一回を実施、３学期に実施できるかを検討する。 今年度、定時制を理解してもらうために学校見学会を３回、学校説明会を１回計画中である。	地域の活性化と益々の発展のために、今後も近隣学校と連携して取り組んでほしい。	10 月 31 日（日）文化祭当日に美化委員 28 名が学校周辺の地域清掃活動を行った。 今年は、定時制学校ホームページの更新を頻繁に行い、最新の情報を提供できた。	令和４年度は、時期をずらし各学年ごとに、全生徒が地域貢献活動に参加できる体制を組んで実施をしたい。
5	学校管理 学校運営	①事故防止の徹底に取り組むとともに、防災意識を高め学校防災力の向上を図る。 ②生徒と向き合う時間を確保するため、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①信頼される学校づくりを目指して事故防止に努めるとともに、生徒に防災意識を持って訓練に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ②会議や連絡事項について、職員連絡ツール(Teams)を活用して効率化を図り、生徒に向き合う時間を確保する。	①私費会計処理の適正処理を徹底するとともに、ＫＹ活動を毎月実施し、不祥事・事故の防止に全職員が取り組む。 ②職員連絡ツール(Teams)を活用し、職員間の連絡を効率よく行う。	①私費会計監査の指摘事項及び不祥事がゼロになったか。 ①年２回の避難訓練及びＤＩＧ訓練を実施できたか。 ②Teams を効率的に活用し、職員間での指示連絡が円滑に行えたか。	令和２年度の会計処理について県の財務事務調査を受け適正処理されていた。 不祥事防止、ＫＹ活動については、計画通り行っている。	避難訓練は１月、ＤＩＧ訓練は 12 月に実施予定である。		令和３年度私費会計監査において、金銭出納記録の指摘事項ゼロ、全職員が事故防止に取り組み、不祥事ゼロを達成できた。 新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で防災訓練の全校生徒が集合する訓練が出来なかったので、零年度は避難の訓練を実施したい。 会議資料を共有ホルダーに保存し全員が閲覧できるようにしたのでペーパーレス化した。 毎日の打ち合わせをTeams 掲示板を利用し、連絡の効率が上がった。	私費会計監査において、前年度分の学校徴収金運営協議会（年3回実施）議事録の不備を指摘されているので注意したい。 職員からもDIG 防災訓練を３学年実施だけでなく、3，2 学年に実施できないか、検討する。 毎年、職員の所属異動があり、新着任者を迎えるので、夜間課程であり、高層ビル校舎の特性を共有し災害に備える。 職員連絡ツール(Teams)を有効活用し、職員間の連絡を効率よく行う。